

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2794200085		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター茨木上穂積(1階)		
所在地	大阪府茨木市上穂積二丁目6番20号		
自己評価作成日	平成23年8月15日	評価結果市町村受理日	平成23年11月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2794200085&SCD=320&PCD=27
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成23年9月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お1人お1人のご利用者の個性や特徴を掴み個別ケアに取り組んでいます。バリデーション技法など幅広くご利用者の思いに沿ったご利用者本位の介護にスタッフ全員で取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは住宅街の中に位置し、庭のフェンスにゴーヤや瓢箪、風船葛が生り、近隣の子どもや通りかかった方との会話のきっかけとなり日常的な付き合いができるようになったり、近隣の公園の自主清掃等の取り組みの積み重ねにより、地域の方々との良好な関係が構築されています。地域の文化祭に利用者の作品を出展したり、自治会の敬老会や運動会にも参加し、活発に交流がなされています。また、利用者一人ひとりの思いに寄り添うため、コミュニケーションに時間をかけて楽しむことができることやその日の状況に応じて対応ができるように、職員はカンファレンスや申し送りでのケアの統一が図られています。職員が対応に困った時には、ノートに書き留めカンファレンスを開き具体的な対応ができるように検討したり、職員は知識や技術の向上に意欲的に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「高齢者の尊厳と自立を守り地域に根ざしたホーム作りをします。」「ご利用者第一主義に徹し地域に根ざしたホーム作りをします。」というホーム理念があります。毎日理念の唱和をし共有して実践につなげています。	利用者の尊厳と自立を守ることと地域に根ざしたホーム作りを理念に掲げ、1日2回唱和し日々意識を持ち支援に繋げています。会議や問題の解決の際には、必ず理念に戻って考えていくことを習慣付け、理念にそったケアの実践を心がけています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・自治会に入っており、自治会主催の行事などなるべく参加するよう計画を立てている。 ・地域の民生委員主催の公民館で開催される高齢者向け行事に参加している。	ホームの庭のフェンスにゴーヤや瓢箪、風船葛が生り、近隣の子どもや通りかかった方との会話のきっかけとなり、日常的な近所付き合いができています。通学の子ども達へのおはよう運動に加え、夕方には「お帰り」の声かけを行っています。また、地域の文化祭に利用者の作品を出展したり、自治会の敬老会や運動会にも参加し、交流が図られています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・毎月2回の公園掃除を長年続けている。 ・地域の方々の認知症に対する理解を深めるため積極的に見学や相談を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開いている。評価への取り組みまたその中で出た意見などサービス向上に活かしている。	運営推進会議は家族や地域包括支援センター職員、民生委員等の参加を得て2か月に1回開催しています。ホームの運営や行事、取り組みの状況等を報告し、参加者から意見をもらっています。ホーム便りに決定事項を載せ、全家族に知らせています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	普段から行政の配布物など通し行政の主催する研修など参加するよう努めている。市町村と共にサービスの向上に努めている。	管理者は少なくとも月に1度は直接市役所に出向き、担当者にホームの状況を伝えたり確認したいことを聞く等、積極的に働き掛けています。また、行政から研修の案内等をもったり、ホームの取り組みを評価してもらえるなど良好な関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人ぐるみで身体拘束撲滅に取り組んでいる。ご利用者の状態を把握し身体拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての勉強会を行い、日々のケアの中で拘束に繋がるような事があればその都度わかりやすく注意し、正しく理解できるよう努めています。玄関は開錠していますが、各ユニットの入り口は施錠しており、家族には理由を説明し、利用者の思いにそって外出できるような支援に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待については、常日頃から重く受け止めそのような事実がないよう法人はじめホームでも委員会をもうけ学習会などを開き虐待防止に努めている。		

ニチケアセンター茨木上穂積（1階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関して深く理解していない職員もいるので、週1回の勉強会を利用し制度についての学習をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、きちんと読み合わせをし、不安や疑問がある場合は、その都度十分な説明を行い理解・納得をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・行政から派遣される相談員が定期的に訪問しご利用者の気持ちを聞く機会もあり、相談員を通しホームに対して苦言など聞く機会もある。普段から気軽に家族等からホーム運営に対して意見など聞ける信頼関係の構築に努めている。出された意見に対して問題解決につとめている。	家族の面会時には直接話を聞くように努め、月に2回介護相談員が利用者から話を聞き伝えてもらっています。年に3回行事の後に時間を作り家族会を行っています。家族会では投薬についてや医療面等のテーマを決めて開催しています。スタッフの名札が欲しいという家族の意見から、名前入りのユニフォームの作成に向けて取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃から自由に意見交換が出来るよう努めている。ホーム会議を利用し各々の意見を慎重に取り上げ職員全員で共有し改善に向けての意見など積極的に取り入れている。組合を通して意見を反映する窓口も設けてあり、管轄支店を通して常に意見を申し入れることも出来る。	月に1度のホーム会議や委員会活動の中で、職員は意見を出し合い運営に反映させています。法人の担当者を通じて意見や提案ができる体制も整えられています。管理者は、個々の職員が意見を言いやすい雰囲気を作り、個々の様子を観て個別に話を聞くこともあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内キャリアアップ制度があり個々の努力や実績により業務評価する場が設けてある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に研修課が設置されており其々の職制に応じた研修を定期的開催している。また外部研修にも積極的に参加推奨している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域の施設部会に所属しており、そこで開催される連絡会や勉強会に積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前後、家族などから多くの情報を聞くよう心がけ疑問点があれば何度も繰り返し話し合いを設け本人が安心していただける関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の不安がないよう繰り返し要望に耳を傾けている。入居後も信頼関係が保てるよう小さなことでも見過ごさず連絡を取り合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族からの要望を聞きもっとも必要とされる事を最優先にしている。他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な雰囲気や大事にしながら、ご利用者も職員も其々役割を決め暮らしを共にする関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報共有を蜜にしスタッフ一同、共に本人を支え関係をささえていく関係をつくっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が心にのこる話をされる場合は時間をとり丁寧に耳を傾けるよう普段から気をつけている。馴染みの人との関係が途切れないよう来訪者に対して特別な事情が無い限りは制限していない。手紙のやり取りもスムーズに行くよう支援している。	利用者が合いたい友人に来訪してもらえるように支援し、面会もスムーズにできるように配慮しています。以前に行っていたカラオケに行き楽しんだり、家族の協力を得ていきつけの美容院に行く等、個々に合わせ入居前の馴染みのことが継続できるように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個別対応に心がけながらも、1人1人が孤立しないようコミュニケーションを取り、共有できるところを探しお互い支え合える関係作りに努めている。		

ニチイケアセンター茨木上穂積（1階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ対応を継続している。退去後の相談支援の実績もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別対応を基本にしており利用者の思いを効果的に聞く取り組みをしている。困難な場合はカンファレンスを開きホーム内研修の中で本人中心の支援を話し合っている。	入居時に以前の生活についての情報を家族や本人から聞き、入居後には一人ひとりにコミュニケーションを丁寧にとり、意向や希望を把握しています。思いを伝えることが困難な場合には、様々なことに参加してもらい関わりを持ちながら、表情や目の動きから好みや希望の把握に繋がっています。カンファレンスで検討し、記録や申し送りで情報を共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族等に沢山の情報提供をお願いしている。これまでのサービス利用の経過など把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	残存能力をいかし出来ることは積極的にお願している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族はじめ協力医療機関等とも常に話し合いをもって現状に即した介護計画を作成している。カンファレンス・モニタリングも定期的に行い反映している。	利用者や家族の意向や状況、医師からの情報等を基にアセスメントを行い、サービス担当者会議を開催し介護計画を立てています。3ヶ月毎にモニタリングや再アセスメントを行い、カンファレンスで介護計画の見直しを行っています。介護計画にそった記録を心がけ、その様子がわかりやすく記載され、計画の見直しに繋がっています。	カンファレンスで出された意見等が記録に残されておらず、経過がわかりにくい状況です。カンファレンスの検討内容を記録に残され、参加していない職員にも計画やケアの方法の変更の内容がわかるようにされてはははいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルに最低でも2・3時間おきに、特記事項があればその都度記入している。スタッフ間で必ず申し送りをして情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方から訪れる家族に対しては、寝具の貸し出しや食事の提供をしている。(いずれも実費徴収)		

ニチケアセンター茨木上穂積（1階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会を通し地域の催し物の情報を得て参加できるものは、参加できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制を開所当時から取っており本人及び家族の希望があればいつでも適切な医療が出来る。	入居時に本人や家族にホームの医療連携体制について説明したうえで、かかりつけ医を決めてもらっています。月2回提携医の往診を受け、週2回訪問看護に来訪してもらい、健康管理を行っています。夜間も含めて24時間連絡ができる体制も築かれています。訪問歯科の来訪が週に1回あり、希望にそって治療を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を取っており訪問看護を週1回利用している。24時間いつでも体調変化の際連絡相談が出来る体制も整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	数件の医療機関と交流があり入院の際は利用者や家族が不安にならないよう医療関係者との情報交換や相談は積極的に進めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態を正しく見つめ、家族の要望を聞き入れ早い段階から主治医との連携を図っており、穏やかな安心の場を提供できるよう職員一同心がけている。	法人の看取りの指針を入居時に説明しています。利用者に変化があればその都度家族に連絡し状況を伝えています。医療が必要となった場合には、家族の意向とホームでできること等を踏まえて医療機関と話し合い、できる限りの対応を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内外で定期的に提携医や看護師の指導を受ける場を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・月に一度自主避難訓練の実施をしている。年2回以上管轄消防員の指導による避難訓練やAEDなど緊急時の訓練も受けている。 ・近隣の住人参加の消防訓練の実績もある。	月に1回の自主訓練では、防災委員を中心に車いすの利用者の避難誘導の方法等を繰り返し行い、職員全員が誘導できるように取り組んでいます。消防署の指導の下に行われる訓練には、自治会の連合会長や近隣の住人、家族の参加を得て協力の依頼も行いながら、初期消火や避難訓練を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お1人お1人の人格の尊重をし、プライバシーを損ねない言葉かけを実践している。勉強会などで常に言葉かけの学習に取り組んでいる。	プライバシーの研修を行い、日々には管理者は馴染みの関係と馴れ馴れしさとの違いを伝え、自己研鑽を大切に職員は繰り返し学んでいます。排泄支援の際の言葉遣いや子ども扱いはしない等、具体的にわかりやすく注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別介助に取り組んでいるので、其々の持ち味や能力に応じた対応をし個人の自己決定を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフの都合を優先する事はない。個々のペースに併せた支援体制をとっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好みや趣味が反映されるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々能力に応じ強制することなく、利用者とスタッフが一緒に準備や食事や片付けをしている。献立も積極的に利用者と相談し決めている。	法人で作成する献立を基本としていますが、週に2回程は利用者の希望を聞きメニューを決めています。利用者と近隣のスーパーに買い物に行ったり、食事の下ごしらえや盛り付けなど、できることを楽しんでもらえるよう支援しています。また、ホームの庭の畑に利用者と一緒に収穫に行き、それが食卓に上がることも楽しみの一つとなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理の一環として食事量や水分量には気をつけている。法人が発している管理栄養士による献立を参考にし偏らない食生活の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日頃は毎食後必ず口腔ケアをしている。週一回歯科医の検診もあり歯科衛生士による口腔ケアの実践もしている。		

ニチケアセンター茨木上穂積（1階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の残存能力に応じ、なるべくトイレでの排泄にむけ支援している。出来るだけオムツの使用を減らす取り組みをしている。	利用者の排泄パターンや尿意の有無等を把握し、トイレで排泄できるよう声をかけたり誘導しています。トイレでの排泄が習慣付けるよう取り組み、できる限り布の下着に変えて生活できるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から主治医や看護師の指導を受けている。水分量や食事などの工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	隔日おきにホームとしての日程は決めているが、その都度ご利用者の意向を聞き、時間などご利用者都合で決めている。体調に合わせた入浴時間の設定もしている。	毎日入浴の準備をして、希望を聞きながらおおよそ隔日に入浴できるように支援しています。希望に合わせて毎日の入浴や足浴、清拭を支援したり、可能な時には夜間入浴にも対応しています。好みで入浴剤を入れたり、季節のゆず湯などを楽しんでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	スタッフからの強制は無く自由に休んでいただける環境作りに取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては法人ぐるみで安全に取り組んでいる。ホーム内でも薬剤師による服薬研修を行ったり、処方内容についてスタッフ全員熟読するよう努めている。症状の変化など申し送りの中で細かく共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族等の助言など積極的に取り入れ、若い時から取り組んでおられた趣味や得意な事など体調に気をつけその都度支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1人1人の希望を聞いて外出支援している。家族等とも相談し協力をえている。	その日の天気や利用者の状況を観ながら、日常的に買い物や近くの公園に散歩に出かけています。近隣の寺へ花見に行ったり、家族の協力を得て外食に出かける等、季節や日頃行けない外出の支援をしています。	

ニチケアセンター茨木上穂積（1階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人として個人でお金の所有はしていないが、本人が希望すれば自由に使用できるお小遣がホーム預かりである。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居の際家族等と相談し特に制限が無い限り何時でも自由に電話や手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、音楽などを流しリラックスしていただけるよう取り組んでいる。庭の草花を飾ったり、季節にちなんだ作品をご利用者と作成し壁に掲示したりと季節感を味わっていただいている。	利用者と一緒に行った作品をリビングの飾り棚に展示したり、季節感のある貼り絵等を飾り、温かみのある空間となっています。広く長い廊下を利用し歩行訓練を楽しみながらできるように工夫したり、廊下の端に椅子を置き休憩や少人数で過ごせるようにしています。リビングに続く和室には家庭的な家具や冬にはこたつを置き、おじゃみ等の遊び道具も自由に取って遊べるように配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室の利用をはじめ、気の合った利用者同士でおしゃべりする席の工夫などその都度相談しながら進めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、住み慣れた環境を出来るだけそのままの状態でも再現出来るよう家族とも相談し馴染みの家具などで対応している。	入居時に使い慣れた物を持って来てもらうように家族に伝えています。鏡台や仏壇、ソファ、テレビ等を置いています。以前描かれた絵や写真、人形などを飾り、利用者が安心できるような居室作りをしています。介護ベッドを使用している人や、じゅうたんを敷き布団で休まれている方もおり、個々の状況や希望に合わせています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、バリアフリー設計で立てられており安全には配慮されている。介助パーなど適切に設置され自立歩行の手助けとなっている。		